

## 資料 7-1

### 委員会前意見（9月14日、大上委員）

1. 委員会・条例の目指すところが分からない。私は、権利侵害による不幸を無くすもしくは減らすのが条例の役割だと思って参加しています。しかし、これまでの説明や提案ではそうは感じられていません。なるほど、これで辛い思いをする子が減りそうだ、と感じません。加えて、おそらく各委員それぞれの条例観があるはずで、それがバラバラでは条例は形にならないのではないかと思います。形になったとしても委員全員が納得したものにならないのではないのでしょうか。委員間で共感できる条例の目的のようなものは作れないのでしょうか。

2. 支援者という言葉が出てきますが、一般的すぎていまいちよく分かりません。おそらくこの分野で通用するある程度限定的な対象を指しているんじゃないか など想像しています。説明があると助かります

5. 夏休みの視察中一番感じたのが、学校が鍵ということ。学校が変わらなければいけない。どうすれば、学校が安心できる場になれるか。どうすれば、自由の相互承認(権利の相互尊重義務)の感度を育めるか。どうすれば、教員が子どもたちから信用を得られるか。どうすれば、学びが嫌いにならないか。どうすれば、加害がなくなるか。学校の役割が重要です。そのための学校へのリソースの提供も必要です。次に、安心できる多様な場と信頼できる大人との関係づくりが必要と感じました。関係があれば各機能につなげることができます。

6. 9月3日にリリースされた「子どもの権利条約」と日本の学校～「物言う子ども」を育てるために」という文書がとても良かったです。委員間で共有したいです。

（前編）「権利の主張」と「わがまま」はどう違うのか [資料 1] <https://imidas.jp/jijikaitai/f-40-224-21-09-g857>

（後編）「子どもの権利条約」を教育にどう活かすのか [資料 2] <https://imidas.jp/jijikaitai/f-40-225-21-09-g858>